

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所	兵庫県立 和田山特別支援学校	研究チーム名
属・職・氏名	職・氏名 教諭 田路 大介	(コミュニケーション研究チーム)

研究テーマ分類番号 (8)

(1)研究テーマ
<p>重度・重複障害をもつ児童生徒のコミュニケーションツールについての研究</p>
<p>(2)研究経過及び具体的な取組</p> <p>< 4月～5月 ></p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態把握 ・コミュニケーション手段の検討 <p>成果</p> <p>実態把握を複数人で進めることができた。以下のような児童生徒の実態について共通理解した。</p> <p>なお、A～Fは児童生徒である。</p> <p>A：過敏で全身の緊張が強くなったり、逆に睡眠傾向にあったり、その時々で認知や身体の状態が大きく変わる。</p> <p>B：聴覚や下肢への意識の集中が多くあり、興味関心や趣味嗜好の大部分をその二つの器官から得ている。</p> <p>C：挨拶のとき会釈をしたり、別れ際に手を振ったりする。</p> <p>D：問いかけに対して笑顔で応えることもあるが、周囲の音に対して過敏で、好きな音が聞こえると笑顔になる等、問いかけに対する反応なのか、音に対する反応なのか不確定な部分がある。</p> <p>E：挨拶や会釈をタイミングよくすることもある。</p> <p>F：「イエス」「ノー」や二者択一の際の意思表示は、完全ではないが、発声や顔の表情、挙手で答えることができる。</p> <p>コミュニケーションの前段階として以下の課題に取り組むことを共通理解することができた。</p> <p>A：スイッチを頬で押すことでおもちゃなどが動くことに気づくところから始める。</p> <p>B：手を使ってスイッチを押すことで音楽が流れることに気づくところから始める。</p> <p>C：写真カードの二者択一で欲しい物を受け取るところから始める。</p> <p>D：自発的な働きかけにより周囲の反応が得られることを理解するところから始める。</p> <p>E：選んだ写真カードと同じものを受け取ることで写真と具体物との関係に気づくところから始める。</p> <p>F：右手挙手（イエス）や左手挙手（ノー）または、笑顔、発声で、意思を伝えることができる人を増やす。</p>

< 6月～8月 >

実施内容

- ・コミュニケーションツールの作製・購入
- ・コミュニケーションツールの導入

成果

児童生徒に合ったコミュニケーションツールを検討し、学習活動で活用することができた。

A：スイッチにぬいぐるみのおもちゃをつなげ、頬でスイッチを押すと動くようにした。

B：「step by step」に本人の好きな音声や音楽を録音し、手で触れることで鳴るようにした。

C・D：本人の好きなものと、興味のないものの写真カードを2枚用意し、黒のボードにマグネットで貼りつけ注目しやすいようにした。

E：「step by step」に「はい」という音声を録音し、スイッチを押すことで、問いかけに対して意思表示ができるようにした。

< 9月～12月 >

実施内容

- ・ビデオ撮影等による検証
- ・コミュニケーションツール使用の仕方の修正
- ・ツールの理解が見られる児童生徒には、より発展的なコミュニケーションの内容へ移行
- ・ツールの理解が難しい児童生徒にはコミュニケーション手段の変更

成果

A：スイッチとおもちゃの関連性を理解するために、光るものなどをスイッチにつなげるなどバリエーションを増やすことができた。

B・E：腕・肘・手首の支援の仕方について検討し、「スイッチを押す」という動作に至る前段階として腕・肘・手首の動作学習を進めることができた。

C：写真カードと実物の関係を理解し、明確に自分の欲しいものを写真カードで選ぶことができるようになった。

課題

Dについては、写真を撮ることはできるが、写真と実物との関係がまだ十分に理解できていない。さらに本人の好きなものを探し、それを写真カードにしていく必要がある。